

病防第58号  
平成30年8月10日

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

トビイロウンカの発生状況および防除（技術情報第5号）について（送付）

トビイロウンカの飛来状況については、平成30年7月11日付け技術情報第3号で発表しましたが、その後の発生状況について下記のとおり取りまとめましたので、業務の参考として御活用ください。

#### 記

8月上旬に実施した調査によれば、早植えおよび普通期水稻におけるトビイロウンカの発生量は平年よりやや少ないですが、増殖に好適な条件であるため、適期防除を徹底しましょう。

トビイロウンカの本田での発生状況を把握するため、8月6日に県内48か所のほ場で払落し調査を行った。

#### 1 発生状況

- (1) 早植え水稻（20ほ場）での10株当たり成幼虫数は0.5頭（平年2.5頭）、発生ほ場率は15.0%（平年58.8%）であり、いずれも平年に比べやや少ない発生であった（表1、図1）。確認されたトビイロウンカは若齢幼虫主体で、芦北町大野は6月21日飛来個体の第二世代幼虫、南阿蘇村は7月6日飛来個体の第一世代幼虫と推定されることから、早植え水稻ではいずれの飛来個体も定着していると考えられる（図2、3）。
- (2) 普通期水稻（28ほ場）での10株当たり成幼虫数は0.01頭（平年0.6頭）、発生ほ場率は3.6%（平年31.0%）であり、いずれも平年に比べやや少ない発生であった（表1、図1）。確認されたのは成虫のみであり、また県北、県央地域で7月第6半旬～8月第1半旬に7月6日飛来個体の第一世代幼虫と考えられるトビイロウンカが確認されていることから、7月6日飛来個体が主に定着したと考えられる（図4）。

## 2 防除対策

本田での発生は平年比やや少であったが、福岡管区気象台が8月2日に発表した九州北部地方の気象予報によると、向こう1ヶ月の平均気温は平年より高く、また競合種であるセジロウンカの発生も少ないことから、トビイロウンカの増殖に好適な条件になると予想されるため、以下に注意して防除を行う。

- (1) 6月21日、7月6日の飛来個体を対象として予想される各地域の防除適期（第二世代幼虫）は表2のとおりである。
- (2) トビイロウンカは増殖率が高く、本年の気象条件では現在低密度のほ場でも高密度となる恐れがある。特に、箱処理剤を使用していないほ場等では注意が必要である。定期的にはほ場の発生状況を観察し、要防除水準（8月中～下旬(10頭/10株)、収穫30日前（30頭/10株））を超えた場合は直ちに防除する。
- (3) 粉剤及び液剤は、トビイロウンカが多く生息する株元に付着するよう散布する。
- (4) トビイロウンカは、イミダクロプリド剤やBPMC剤に対する感受性が低下している（平成30年3月14日付技術情報第14号 [http://www.jppn.ne.jp/kumamoto/H29/yosatu/180314gi\\_jyutu.pdf](http://www.jppn.ne.jp/kumamoto/H29/yosatu/180314gi_jyutu.pdf) 参照）ので、防除に使用する薬剤の選定には注意する。
- (5) 飼料用米等の多肥栽培や栽培期間の長い品種では、多発する傾向があるので注意する。
- (6) 農薬を使用する際は、必ずラベルなどで使用方法を確認し、登録がある農薬を使い、収穫前使用日数や使用回数、希釈倍数等を遵守する。また、ミツバチや魚介類など周辺動植物及び環境へ影響がないよう、飛散防止を徹底するとともに、事前に周辺の住民や養蜂業者等へ薬剤散布の連絡を行うなど、危害防止に努める。

表1 トビイロウンカの発生状況  
10株当たり虫数

地点名	成虫				幼虫			計
	長翅♂	長翅♀	短翅♂	短翅♀	老齢	中齢	若齢	
山鹿市鹿北1	0	0	0	0	0	0	0	0
山鹿市鹿北2	0	0	0	0	0	0	0	0
山鹿市菊鹿1	0	0	0	0	0	0	0	0
山鹿市菊鹿2	0	0	0	0	0	0	0	0
阿蘇市内牧1	0	0	0	0	0	0	0	0
阿蘇市内牧2	0	0	0	0	0	0	0	0
南小国町1	0	0	0	0	0	0	0	0
南小国町2	0	0	0	0	0	0	0	0
南阿蘇村1	0	0	0	0	0	0	0	0
南阿蘇村2	0	0	0	0	0	0	3.7	3.7
南阿蘇村久木野1	0	0	0	0	0	0	0	0
南阿蘇村久木野2	0	0	0	0	0	0	0	0
山都町北中島1	0	0	0	0	0	0	0	0
山都町北中島2	0	0	0	0	0	0	0	0
甲佐町早川1	0	0	0	0	0	0	0	0
甲佐町早川2	0	0	0	0	0	0	0	0
八代市二見町1	0	0	0	0	0	0	0	0
八代市二見町2	0	0	0	0	0	0	0	0
芦北町大野1	0	0	0	0	0	0	1.7	2.0
芦北町大野2	0	0	0	0	0	0.7	4.3	5.0
<b>平均(20ほ場)</b>	0	0	0	0	0	0.1	0.5	
	成虫 計			0	幼虫 計		0.5	
<b>計(成虫・幼虫)</b>	0.5							
<b>平年<sup>注4)</sup></b>	2.5							
<b>発生ほ場率</b>	15.0%							

地点名	成虫				幼虫			計
	長翅♂	長翅♀	短翅♂	短翅♀	老齢	中齢	若齢	
熊本市画図1	0	0	0	0	0	0	0	0
熊本市画図2	0	0	0	0	0	0	0	0
熊本市中無田1	0	0	0	0	0	0	0	0
熊本市中無田2	0	0	0	0	0	0	0	0
熊本市富合町新1	0	0	0	0	0	0	0	0
熊本市富合町新2	0	0	0	0	0	0	0	0
宇城市松橋町1	0	0	0	0	0	0	0	0
宇城市松橋町2	0	0	0	0	0	0	0	0
玉名市北牟田1	0	0	0	0	0	0	0	0
玉名市北牟田2	0	0	0	0	0	0	0	0
玉名市横島1	0	0	0	0	0	0	0	0
玉名市横島2	0	0	0	0	0	0	0	0
山鹿市南島1	0	0	0	0	0	0	0	0
山鹿市南島2	0	0	0	0	0	0	0	0
山鹿市鹿本1	0	0	0	0	0	0	0	0
山鹿市鹿本2	0	0	0	0	0	0	0	0
菊池市赤星1	0	0.3	0	0	0	0	0	0.3
菊池市赤星2	0	0	0	0	0	0	0	0
大津町新1	0	0	0	0	0	0	0	0
大津町新2	0	0	0	0	0	0	0	0
嘉島町下仲間1	0	0	0	0	0	0	0	0
嘉島町下仲間2	0	0	0	0	0	0	0	0
八代市高田1	0	0	0	0	0	0	0	0
八代市高田2	0	0	0	0	0	0	0	0
永川町1	0	0	0	0	0	0	0	0
永川町2	0	0	0	0	0	0	0	0
芦北町花岡1	0	0	0	0	0	0	0	0
芦北町花岡2	0	0	0	0	0	0	0	0
<b>平均(28ほ場)</b>	0	0.01	0	0	0	0	0	
	成虫 計			0.01	幼虫 計		0	
<b>計(成虫・幼虫)</b>	0.01							
<b>平年<sup>注4)</sup></b>	0.6							
<b>発生ほ場率</b>	3.6%							

注1) 1ほ場につき、30株調査

注2) 早植え水稻(6月上旬までの移植)

注3) 計はラウンドの関係で一致しない

注4) 平年値は2011年を除く過去9年

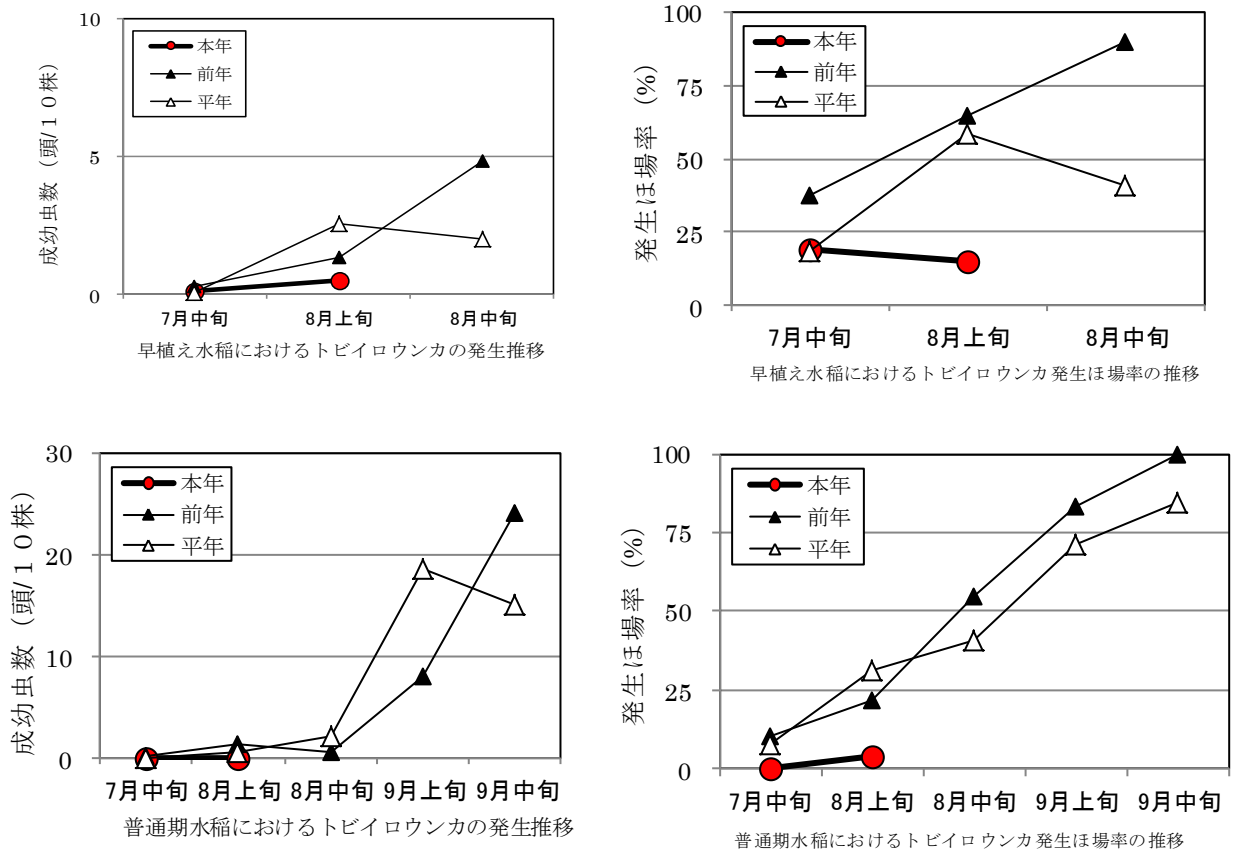


図1 早植えおよび普通期水稻での発生推移（左：成幼虫数、右：発生ほ場率）

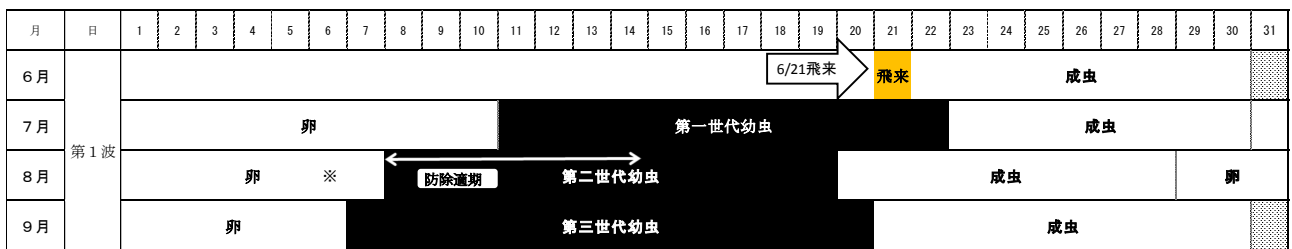


図2 トビイロウンカのステージ発生予測（水俣のアメダスデータから計算）※調査日

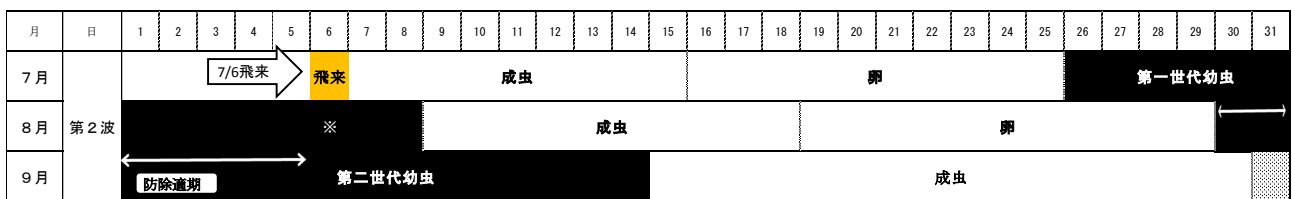


図3 トビイロウンカのステージ発生予測（阿蘇乙姫のアメダスデータから計算）※調査日

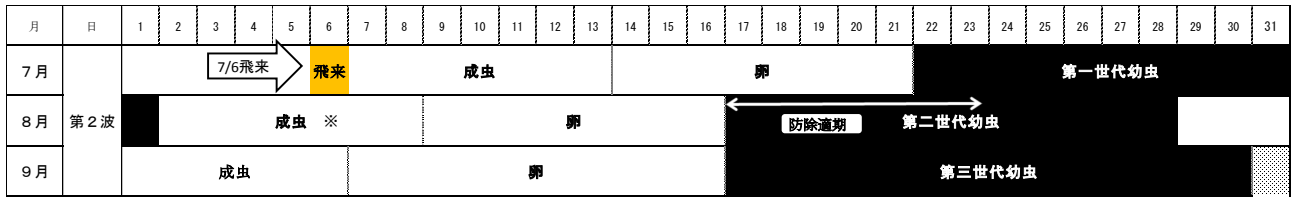


図4 トビイロウンカのステージ発生予測（熊本市のアメダスデータから計算）※調査日

表2 予想されるトビイロウンカの防除適期<sup>注)</sup>  
 (6月21日飛来)

地点	防除適期 <sup>注)</sup> (第二世代幼虫)
鹿北	8月9～15日
南小国	8月16～22日
阿蘇乙姫	8月18～24日
甲佐	8月9～15日
水俣	8月8～14日

注)・6月21日、7月6日を起点として、各地点のアメダスデータ(8月7日までは今年のデータ、8月8日以降は平年値)をもとに、有効積算で今後の発育ステージを予測した。

ステージ	有効積算温度(日度)	発育0点(°C)
成虫	125	12
卵	135	11.4
幼虫	250	6.5

(7月6日飛来)

地点	防除適期 <sup>注)</sup> (第二世代幼虫)
熊本	8月17～23日
三角	8月20～26日
岱明	8月17～23日
鹿北	8月21～27日
菊池	8月20～26日
阿蘇乙姫	8月30日～9月5日
甲佐	8月21～27日
八代	8月20～26日
水俣	8月21～27日
人吉	8月22～28日
本渡	8月22～28日

熊本県病害虫防除所  
 (熊本県農業研究センター 生産環境研究所  
 病害虫研究室 予察指導係)  
 担当: 坂本・清永 TEL 096-248-6490